# 令和元年度中国・遼寧省派遣交流職員レポート⑤
## ～遼寧省人民政府での研修～

你好！こんにちは！私の派遣先である遼寧省人民政府についてご紹介します。神奈川県と遼寧省は1983 年に友好提携して以来、様々な分野で友好協力関係を深めてきました。その交流の一環として行っているのが職員の相互派遣です。両県省の人的ネットワークの構築と相手先地域の現況の調査・研究に取り組むために事業を実施しており、これまで遼寧省から神奈川県に計 11 名を受入れました。

神奈川県から遼寧省へ派遣されたのは私が７人目で、現在、遼寧省人民政府外事弁公室に籍を置きながら研修を受けています。具体的には、省政府関係機関の見学の他、日本の政治・経済・文化について調査し外事弁公室へ発表・報告したり、省政府主催のイベントにおけるあいさつ文・司会文の和訳を行ったり、遼寧省を訪問する日本人ゲストの応対などに取組んでいます。

また、現地の中国人学生向けに日本語の授業・レッスンや交流も行っています。瀋陽在住の日本人はおよそ 500 名と限られており、（中国語が理解できる）日本語ネイティブ話者には、日本語を教えてほしいという依頼が各所から届きます。これまで私が日本語を教えてきたのは、中学生から大学生にかけての若年層が中心で、彼らは日本のアニメ・ドラマや日本料理に興味津々です。日本語の授業を通して、言語の知識はもちろん日本の文化・習俗についても紹介しました。これらの活動を通して、まさに日中交流の架け橋の役割を担っているのだと感じました。

今回は、遼寧省人民政府の研修において、私が実際に見学した機関をいくつか紹介します。

〇遼寧省人民政府の概要

遼寧省政府は、世界遺産の北陵公園のすぐ南に位置します。セキュリティが厳重で、日本の官公庁とは比べ物にならないくらい広大です。正門には守衛が立っていて、入門証を提示するか訪問者名簿を記入する必要があります。かつて東北大学（初代校長・張学良）のキャンパスが設置されていた場所なので、敷地内に花壇や広場、体育館のほか、張学良夫人旧居などもあります。

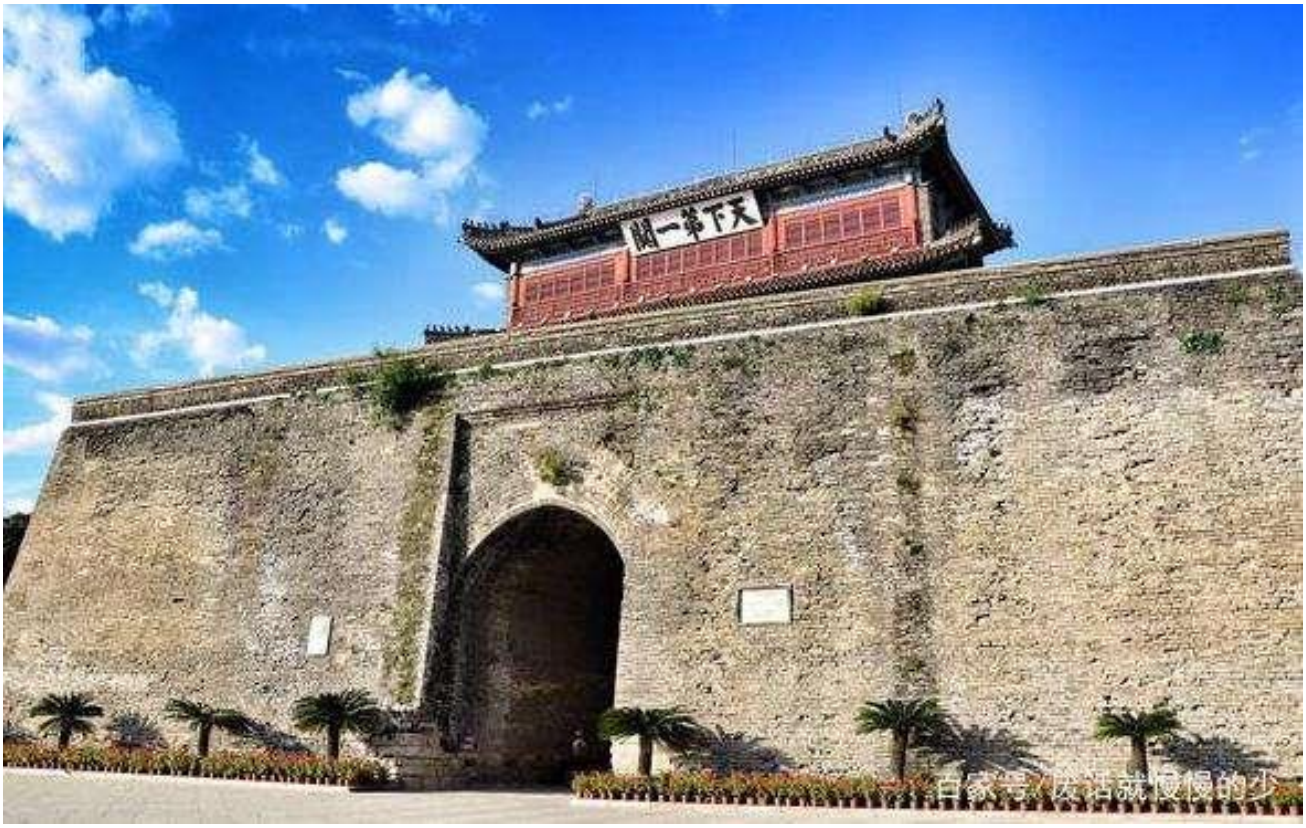
日本の官公庁は１つのビルに複数の所属がひしめき合って入居していますが、遼寧省政府では基本的に各所属が建物１棟を使用しており、別の所属を訪問する時は車で移動します。例えば、外事弁公室は５階建てのビルに入居しており、事務室１部屋を原則２名の職員で使っています。個人スペースが広くとれるので、昼寝用のベッドを持ち込んでいる人も見かけました。同じ建物内に応接室や会議室はもちろん、図書スペースやビリヤード台があり、快適な執務環境が整っています。

〇本庁組織

本庁組織では、遼寧省の経済・社会発展・エネルギー施策などの分野で計画を立てて進捗を管理する「発展改革委員会」や、営商環境（企業の設立から解散までを取り巻く各種環境や条件）の改善・向上に取り組む「営商環境建設局」などを見学しました。

特に、遼寧省は営商環境の整備に注力しており、2017 年の全人代で許可を受けて、全国で初めて営商環境に関する地方条例を制定しました。2018 年から詳細な内容の条令を制定し、2019 年９月１日から施行される予定です。遼寧省に引き続いて、江蘇省や黒龍江省、吉林省においても同様の条例制定の手続きを進めています。

中国には「投资不过山海关」（投資は山海関を越えない）という言い回しがあります。山海関とは、現在の河北省秦皇島市にある万里の長城最東端の関所です。北京などがある華北地区と東北地区の境目となるランドマークで、つまり「山海関を越えない」とは「東北地区まで到達しない、広がらない」という意味を持ちます。俗語ではありますが、実際に企業が東北地区に進出しないという事態を招いており、経済停滞を招いています。2016 年には、遼寧省が全省で唯一 GRP 成長率がマイナスを記録し（－2.5%）衝撃を与えました。この不名誉を挽回するため、遼寧省を含めた東北地区全体で営商環境の向上に取り組んでいると言えます。




「天下第一関」と呼ばれる山海関

遼寧省営商環境建設局では具体的に、省内で起業する際の各種手続きの一本化・簡便化に取り組んでいます。「１回で済む」がキーワードで、特殊な営業許可を必要としない一般企業は、３日で全ての手続きが済ませられるのがセールスポイントです。まず、創業を考えている団体や個人は、「政務服務中心」の起業窓口に訪問します。そこで専属の担当者が割り振られるので、登記・税務・公証・公安等の一切の手続きを１つの窓口で行うことができます。かつては各種事務手続きをそれぞれ所管の部署を訪ねて行っていましたが、現在は起業窓口において担当職員のサポートを受けながら全ての手続きを終えられるので、創業に係る手続きが簡便化かつ迅速化しました。

また、住民の利便性向上も営商環境の一つに含まれるとのことで、住民サービスの質を高めるプラットフォームの建設も同時に推進しています。例えば、社会保険、身分証発行等の行政関係の手続きをインターネット上で出来るよう準備を進めています。また、市民生活の手続きを行う際、現時点では申請内容ごとに窓口が異なっていますが、今後、上記の起業手続きのように全ての窓口を一本化するため、現在、一部の市民センターで試行中だそうです。

営商環境の向上にあたり課題になるのが、あらゆる情報データの集約と窓口対応にあたる職員の教育です。窓口の一元化やインターネット上で各種手続きを完結させるためには、現状、行政の各部門でそれぞれ管理している情報を一つにまとめること、引いては各地域、国で管理している住民・企業の情報を全国統一のネットワークでスムーズに連携させることが必要になります。また、起業相談や住民の相談・問合せ等の窓口を一本化するためには、一次対応にあたる窓口職員が事前に把握しなければならない関係知識はどうしても多くなってしまいます。営商環境向上のためには、行政情報の集約・連携、職員の教育・訓練が重要です。

〇出先機関

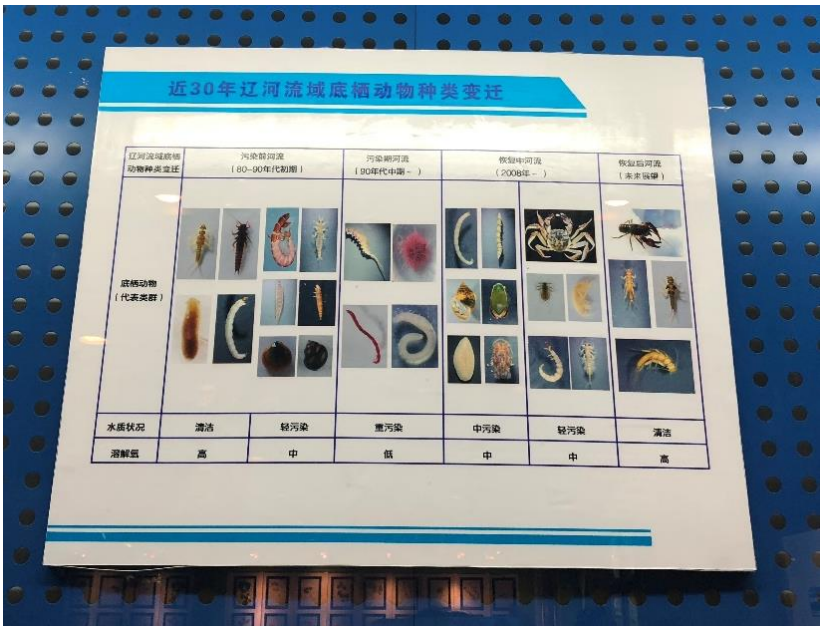
省の出先機関・外郭団体としては、介護、背柱リハビリテーション、脳性麻痺・骨疾患の手術、白内障などの眼病の治療、心理リハビリテーション等のサービスを提供している「障害者リハビリセンター」を見学しました。10 階建ての建物内には、老人ホームのように高齢者の居室が並ぶエリアや、各種リハビリ機器を揃えた訓練スペースなどがあり、きちんと整理整頓されて清潔に保たれていました。現在は病院施設のバリアフリー化や、病院・患者情報の効率的な活用を目指すスマート化に取り組んでいるそうです。中国で５つしかない「省級三級リハビリセンター（※三級が最高ランク）」の１つですが、日本の総合病院等に比べるとかなり小規模な印象で、建築面積 2.2 万平方メートル、職員 300 名強、病床数 220 床でした。すでに高齢化社会に突入している中国では、介護・リハビリ分野への関心が高まっており、今後このセンターは更に発展していくと思われました。

遼寧省障害者リハビリセンター

また、瀋陽市東部にある「生態環境庁」も訪問しました。水・大気・土壌の汚染防止施策、生活飲用水・大気の質量測定、危険廃棄物・汚染物の管理、農村の環境管理、海洋生態系の保護、環境保護教育などを

行っています。生態環境庁自体が郊外の自然豊かな場所にあり、遼寧省に生息する貴重な動植物の標本や環境保護の取組みについて展示する「生物標本館」も併せて見学できました。

生態環境庁のエントランス




生物標本館の展示

更に、遼寧省博物館主催の「平山郁夫所蔵シルクロード文物展」において、開幕式のあいさつ文・司会文の日本語訳に携わりました。平山郁夫は仏教やシルクロードをテーマにした作品を多く手掛けた日本画家で、シルクロードの東端である中国に幾度となく訪れています。シルクロード関連の文物を多数収集し、現在は平山郁夫シルクロード美術館に所蔵されています。同美術館の本格的な海外展開の一環として、遼寧省博物館において展覧会が実施される運びとなりました。特に 2019 年は中華人民共和国建国 70 周年に当たり中国全体で文化振興の機運が高まっているとともに、中国政府が進める「一帯一路（現代版シルクロード経済圏構想）」政策と本展覧会のテーマがまさしく合致するので、今後も中国の他都市で展開していくと思われます。

平山郁夫所蔵シルクロード文物展の様子

今回で私の投稿は最終回となります。省政府機関の視察や各種行事に参加し充実した研修生活を送ってきましたが、2020 年１月以降は新型コロナウイルス感染拡大により、全く活動できなくなりました。遼寧省には１月中旬から感染者が出始め、１月 25 日の春節（旧正月）を迎える頃には社会活動が厳しく制限されるようになりました。２月に入ってからは寮の管理人から外出制限がかけられて自室にこもりきりで、誰にも会えず仕舞でした。このような形で研修終了を迎えることとなりとても残念ですが、遼寧省滞在期間中、中国語上達はもちろん、中国の地方行政について実地で学んだり、現地の人と交流を深めたり、日本では得難い貴重な経験をすることができました。帰国後は、両県省の友好交流関係の更なる発展に尽力します！